

2024 年度 後期 教養教育		日英区分 : 日本語
Webアプリケーション開発入門		
■ 時間割コード	■ ナンバリング	■ 科目分野
LB2343	LB-1-AS0048-J	【教養教育】学びのリテラシー（2）
■ 担当教員（ローマ字表記）		
小川 康一 [Ogawa, Koichi]		
■ 対象学生	■ 対象年次	■ 単位数
		2

■ 授業の目的

本授業では、社会において広く利用されている情報システムやサービスについての成り立ちや動作原理を学び、これらの背景にある技術要素についての理解を深めるとともに、自ら基本的なWebアプリケーションを組み、実際の動作を確認出来るようになることを目的とする。コンピュータシステム、ネットワークシステム、クラウド基盤の構築・運用の実務経験のある教員がそれらの経験をふまえた授業を展開する。

■ 授業の到達目標

Webサービスの仕組みを理解し、説明ができる。
PHPとMySQLを用いて基本的なWebアプリケーションを構築できる。

■ ディプロマポリシーとの関連（評価の観点）

A：諸科学についての基礎的知識と理解 ○
B：論理的・創造的思考力 ○
C：コミュニケーション能力 ○
D：社会的倫理観・国際性 -

■ 授業概要

情報システムやWebサービスについての知識を得るとともに、これらの背景にある技術要素について理解し、自ら基本的なWebアプリケーションを開発する。

■ 授業の形式（授業方法）

授業の前半は、講義により情報システムおよびWebサービスについて学び、都度各自のPCにより演習を行う。授業の後半は、何名かで構成するグループに分かれ、普段感じている課題や不便さについて話し合い、これを解決する独自の新しいシステムやサービスについて、調査、議論、検討を行う。独自に検討したシステムについて、できるだけ実際に実装を行い、その機能や効果を検証する。最終成果は、講義内でグループごとに発表を行う。

■ 授業スケジュール

第1回 ガイダンス・イントロダクション
第2回 環境設定・ソフトウェアインストール
第3,4,5,6回 PHPによるプログラミング
第7,8回 データベースについて、MySQL (MariaDB) のインストール、PHPからのデータベースの利用
第9,10,11,12,13, 14回 PHPアプリケーションの実装、グループワーク
第15回 グループ発表

■ 授業時間外学修情報

「学修」とは授業と授業時間外の予習・復習などを含む概念です。1単位につき45時間の学修が必要です。学則で定められている1単位の時間数は次のとおりです。

講義・演習 授業15～30時間、授業時間外30～15時間
実験・実習・実技

課題を出しますので、自ら積極的にアプリケーションを作成し、できたものがどのような動きをするか確認すること。後半は、Webサービスの調査、開発についてグループで協力して取り組むこと。
なお、授業時間内だけでは、全ての知識を網羅することは困難であるため、動画コンテンツや補助教材を利用し、プログラミングを行ったことがない学生に対する配慮を行う予定である。

■ 成績評価基準（授業評価方法）及び関連するディプロマポリシー

小テスト (20点) A, B
グループ評価 (20点) A, B, C
最終課題 (40点) A, B, C
教員評価 (20点) A, B, C

■ 受講条件（履修資格）

授業にノートパソコンを持参してください。
OSはWindowsもしくはMac OSを推奨しますが、Linuxでも問題ありません。

■ メッセージ

自分で実際にやってみないと分かりません。手を動かしてどのような動作をするか確認してください。
可能であれば習得した方法を使って自分でプログラムを作ってみましょう。

■ キーワード

■ ■ この授業の基礎となる科目

情報、Linuxリテラシー入門

■ ■ 次に履修が望まれる科目

■ ■ 関連授業科目

■ ■ 教科書

■ ■ 参考書

参考書1	ISBN	4295201103				
	書名	初心者からちゃんとしたプロになるPHP基礎入門				
	著者名	柏岡秀男 著, 柏岡, 秀男,	出版社	エムディエヌコーポレーション	出版年	2021
	備考					

■ ■ 教科書・参考書に関する補足情報

参考書の購入は必須ではありませんが、記載内容に沿って講義します。
中央図書館にありますので必要に応じて参照してください。

■ ■ コース管理システム (Moodle) へのリンク

<https://mdl.media.gunma-u.ac.jp/course/view.php?id=3112>

■ ■ 授業言語

参考書・資料：「日本語」

講義・討論：「日本語」

2024 年度 前期 教養教育		日英区分：日本語	
生態系と環境			
■ ■ 時間割コード	■ ■ ナンバリング	■ ■ 科目分野	
LB1276	LB-1-NS0011-J	【教養教育】自然科学科目群	
■ ■ 担当教員（ローマ字表記）			
西村 尚之 [Nishimura Naoyuki]			
■ ■ 対象学生	■ ■ 対象年次	■ ■ 単位数	
		2	

■ ■ 授業の目的

現代の様々な環境問題、特に、生物との関わりが深い問題を理解するためには、生態学の知識が重要である。生態学は自然界における生物の生命活動をその生物群を取り巻く環境と関連させて学問する生物学の1分野である。そこで、本講義では、同種個体の集まりである個体群や異種個体群で形成された生物群集の特徴を理解し、これらの生物集団と環境との相互作用系である生態系に関する正しい認識から私たち人間の生存にかかわる自然界で起こる課題について説明できるようになることを目的とする

■ ■ 授業の到達目標

生物個体、個体群、群集とはどのようなものか具体的にイメージできる。
生物間相互作用と群集の成り立ちや機能について考察できる。
生態系と人間環境との関係を正しく理解できる。

■ ■ ディプロマポリシーとの関連（評価の観点）

A：諸科学についての基礎的知識と理解 ○
B：論理的・創造的思考力 ○
C：コミュニケーション能力 -
D：社会的倫理観・国際性 △
（○：特に重視する ○：重視する △：評価対象 -：評価対象としない）

■ ■ 授業概要

自然界の生物は、何らかの形で集団を成して生育している。自然界における生物の存在は、個体、個体群、群集などといったさまざまなレベルで観察される。そのような生命現象には普遍的な性質が存在し、一方、生命体のすがただけでなく生命体の演ずる現象もまた多様である。これらを具体的にイメージして理解することは難しい。そこで、このような生物圏に関する知識を科学的に理解するために、生態学の基礎に立ち、実際の科学的なデータを取り上げながら、講義を行う。なお、本講義は環境アセスメント・環境政策・農林業普及教育の実務経験のある教員が、その実務経験を活かして、生物集団と環境との関係についての授業を行う。

■ ■ 授業の形式（授業方法）

大学全体の講義開講形態の方針により講義形式・スケジュール・評価方法が変更になることがあります。その場合には教務システムなどの掲示により本講義の講義方法についての資料を提示します。なお、以下には例年の講義形式を示します。
通常の講義形式であるが、生物現象について理解するためには視覚的な教材も必要である。そのため、スライドやビデオなども活用する。

■ ■ 授業スケジュール

大学全体の講義開講形態の方針により講義形式・スケジュール・評価方法が変更になることがあります。その場合には教務システムなどの掲示により本講義の講義方法についての資料を提示します。なお、以下には例年のスケジュールを示します。

- 第1回 ガイダンス：履修上の注意と本講義の内容（生物学の中の生態学）
- 第2回 生態系と自然環境：生命の共通性と地球上での生物の存在
- 第3回 生物種の分類と種数：地球上に存在する生物種数と進化
- 第4回 生物集団の特徴：生物と環境要因、および生物個体群の特徴
- 第5回 個体群の成長過程：生物増殖（出生と死亡）のモデル（指数モデルとロジスティックモデル）
- 第6回 生態系の成り立ち1：生物群集と生態系の安定性
- 第7回 生物間の相互作用：種間の競争排除の原理とニッチ（生態的地位）とすみわけ
- 第8回 生物進化と生存戦略：自然選択と様々な生活史戦略
- 第9回 生態系の成り立ち2：生態系における物質生産の役割
- 第10回 生態系の成り立ち3：生態系における物質循環の役割
- 第11回 世界のバイオーム（生物群系）：生物集団の地理的分布と地球上の様々な生態系
- 第12回 日本の植生：日本の森林生態系の成立条件とその特徴
- 第13回 植生の遷移と森林の維持機構：生態系の変化と植物群集の移り変わりの仕組み
- 第14回 生物多様性と生態系：生物多様性とは（種多様性の指標と生態系の機能・サービス）
- 第15回 まとめ（生物圏と地球環境）：生態系保全に必要なことは何か？

■ ■ 授業時間外学修情報

「学修」とは授業と授業時間外の予習・復習などを含む概念です。1単位につき45時間の学修が必要です。

学則で定められている1単位の時間数は次のとおりです。

講義・演習 授業15～30時間、授業時間外30～15時間

実験・実習・実技

指定された教科書の予習と復習

■ ■ 成績評価基準（授業評価方法）及び関連するディプロマポリシー

大学全体の講義開講形態の方針により講義形式・スケジュール・評価方法が変更になることがあります。その場合には教務システムなどの掲示により本講義の講義方法についての資料を提示します。なお、参考として例年の評価基準を以下に示します。

課題（30%）、学期末の筆記試験（70%）により評価する。筆記試験は100点満点の問題を出題し、評価には各自のこの筆記試験の素点×0.7とした点数を使用します。

関連するDPは以下の通りです

A：諸科学についての基礎的知識と理解○

B：論理的・創造的思考力○

D：社会的倫理観・国際性△

課題や試験の評価基準は、生物個体、個体群、群集を具体的に説明でき、かつ、生物間相互作用と群集の成り立ちや機能を理解して、生態系と人間環境との関係を考察できるレベルを判定して、これらを総合的に判断して最終成績を決定する。

■ 受講条件（履修資格）

生物に興味があること。

■ メッセージ

出席回数が全講義（15回）の3分の2以上の場合に限り筆記試験の受験を認める。特別な理由がなく、自己都合により第1回目ガイダンスかつ第2回目の講義を受講しないものには履修を認めない場合がある。出席や課題などにおいて規律違反をした学生には絶対に履修を認めない。また、許可無く講義中のパソコンやタブレット・スマートフォン・携帯電話の使用を認めない。

■ キーワード

生態学、生物群集、個体群、生態系、生物圏、生物多様性、実務経験

■ この授業の基礎となる科目

特になし

■ 次に履修が望まれる科目

特になし

■ 関連授業科目

特になし

■ 教科書

教科書1	ISBN	9784320057869				
	書名	大学生のための生態学入門				
	著者名	原 登志彦(監修)・西村 尚之(著)	出版社	共立出版	出版年	2017
	備考	必ず購入すること				

■ 参考書

■ 教科書・参考書に関する補足情報

■ コース管理システム (Moodle) へのリンク

■ 授業言語

日本語

2024 年度 後期 教養教育		日英区分 : 日本語
知っておきたい肺とアレルギーの話		
■ 時間割コード	■ ナンバリング	■ 科目分野
LB2207	LB-1-HS0011-J	【教養教育】健康科学科目群
■ 担当教員（ローマ字表記）		
久田 剛志 [Hisada Takeshi]		
■ 対象学生	■ 対象年次	■ 単位数
		2

■ 授業の目的

肺は、酸素を取り込み二酸化炭素を吐き出す臓器である。常に外界（周りの空気）と触れ合っているため、多くの病気がおこりえる。アレルギーを含めた呼吸器の疾患について、医療関係者のみならず、皆が知っておきたい肺とアレルギーの基本的知識についてやさしく解説する。呼吸器を中心として、病気の成り立ちや予防法、治療法の基礎を理解し、今後の生活、職業、研究などに役に立つ基本的な知識を身に付けることができるようになる。以上のことを目的とする。

■ 授業の到達目標

教養教育の科目であり、専門知識がなくても理解できるレベルである。
以下を到達目標とする。
基本的な呼吸の仕組み、肺の働きについて説明できる。
代表的な呼吸器疾患の成り立ちを説明できる。
呼吸器疾患やアレルギー疾患の予防法や治療法の基本について説明できる。

■ ディプロマポリシーとの関連（評価の観点）

- A：諸科学についての基礎的知識と理解 ○
B：論理的・創造的思考力 ○
C：コミュニケーション能力 △
D：社会的倫理観・国際性 △

この科目を受講することによって、人体の巧妙な仕組みと各種疾患が発症するメカニズムを理解することはいろいろな学部の特設教育にも通じるところがある。また、自己の健康管理にも役立つものである。

■ 授業概要

呼吸機能について、また喫煙の健康への影響、呼吸器疾患とアレルギー（肺癌、結核、肺炎、睡眠時無呼吸症候群、喘息、花粉症など）をやさしく、予防法なども含めて解説する。呼吸器学会専門医、アレルギー学会専門医、感染症専門医である教員が、その実務経験を活かして授業を行う。

■ 授業の形式（授業方法）

講義形式が主体である。

■ 授業スケジュール

全担当：久田剛志

- 第1回 肺の働き、呼吸の役割
第2回 タバコの影響・・・軽いタバコならいいのでしょうか？ 新型タバコは？
第3回 タバコ病である肺気腫（COPD）を知り、あとで後悔しないようにしましょう
第4回 肺がんを知り、予防に心がけましょう
第5回 睡眠中に息がとまっていませんか？ 睡眠時無呼吸症候群
第6回 結核、なぜマスコミで騒がれたのでしょうか？
第7回 まとめ①
第8回 肺炎・インフルエンザ 超高齢社会において
第9回 アレルギーは、どうしておこるのでしょうか？
第10回 喘息はなぜおこるのでしょうか？ 予防と治療は？
第11回 花粉症を何とかするには？
第12回 鳥の飼い主などを襲う息苦しい病気 - 過敏性肺炎
第13回 環境や職業によっておこる肺の病気？
第14回 食事による病気の予防！ 呼吸器疾患やアレルギーにも・・・
第15回 まとめ②
第16回 試験

※ 予定が変更になる場合には、随時連絡します。

■ 授業時間外学修情報

「学修」とは授業と授業時間外の予習・復習などを含む概念です。1単位につき45時間の学修が必要です。
学則で定められている1単位の時間数は次のとおりです。

講義・演習 授業15～30時間、授業時間外30～15時間
実験・実習・実技

毎回資料またはプリントを用意する。Moodleにより予習また復習し、知識を確実なものにして欲しい。
毎回のリアクションペーパーについて記載し提出する。
試験は記述式問題が中心であり、プリント、資料内容を理解していれば解答できる。

■ 成績評価基準（授業評価方法）及び関連するディプロマポリシー

各回で課されたリアクションペーパーの記述内容および講義内容に関して課される最終筆記試験の結果などを総合的に評価する。
基本的理解 A・B・C
レポートの適切な記載 A・B
履修の手引きに記載されたルーブリックに基づいて行われる。

最終レポート（70%）、各授業における課題（30%）（A,B,C,D）で評価する。

S評価、90点以上かつ受講者のなかで特に優れていると判断される者、A評価、80点以上でS評価以外の者、B評価、70-79点の者、C評価、60-69点の者、D評価、60点に満たない者。ただし試験問題の難易度によって評価を調整する場合もある。

■ ■ 受講条件（履修資格）

全学部生

■ ■ メッセージ

肺の病気は、年齢を問わず発症し、様々なものがある。病気の本質とその予防法を理解し、健康な生活を送れるように今から努めよう。新しい健康に関する話題も随時取り入れてやさしく解説していく。

■ ■ キーワード

肺、呼吸器、喫煙、肺がん、結核、アレルギー、喘息、睡眠時無呼吸症候群、 ω 3脂肪酸、アクティブラーニング、実務経験

■ ■ この授業の基礎となる科目

■ ■ 次に履修が望まれる科目

■ ■ 関連授業科目

■ ■ 教科書

■ ■ 参考書

■ ■ 教科書・参考書に関する補足情報

Moodleから講義で使用する資料、プリント等を見ることができる。必要に応じてプリントを配布する。

■ ■ コース管理システム (Moodle) へのリンク

<https://mdl.media.gunma-u.ac.jp/course/view.php?id=3430>

■ ■ 授業言語

教科書・資料：「日本語と英語」

講義・討論：「日本語」

2024年度 後期 教養教育		日英区分:日本語
がん予防・治療・ケア		
■ 時間割コード	■ ナンバリング	■ 科目分野
LB2440	LB-1-HS0002-J	【教養教育】健康科学科目群
■ 担当教員（ローマ字表記）		
近藤 由香 [Kondoh Yuka], 小澤 厚志 [Ozawa Atsushi], 京田 亜由美 [Ayumi Kyota]		
■ 対象学生	■ 対象年次	■ 単位数
		2

■ 授業の目的

学生は、がん予防・治療・ケアについての基本的な知識を学ぶ。学生は、学んだがん予防・治療・ケアについての基本的な知識を、自分および身近な周囲の人の医療行動に役立てる必要性を理解する。

■ 授業の到達目標

1. 日本や群馬県におけるがん対策について説明できる。
2. がんの疫学・がん予防に必要な生活習慣を説明できる。
3. がんの治療であるがん薬物療法、放射線療法、手術療法を説明できる。
4. 3大治療に伴うケアの方法を説明できる。
5. がん治療における意思決定支援の必要性を述べるができる。
6. 緩和ケアの概念の変遷から必要性を述べるができる。
7. がん看護における家族ケアの必要性と方法を述べるができる。
8. がんや治療に伴う様々なストレスを緩和する方法について説明できる。

■ ディプロマポリシーとの関連（評価の観点）

- A：諸科学についての基礎的知識と理解 ○
B：論理的・創造的思考力 ○
C：コミュニケーション能力 ○
D：社会的倫理観・国際性 ○

■ 授業概要

本科目は、医師、看護師の実務経験のある教員が、実務経験を活かして授業を行う。

第1回、4～15回は看護師の実務経験がある近藤由香と京田亜由美が担当する。第2、3回は、医師である小澤厚志が担当する。

がん医療の動向、がん医療をめぐる一次・二次・三次予防の意味を知る。がん発病にいたるメカニズムと主な治療を理解し、がんを予防するための生活習慣について学ぶ。また、がんの早期発見のための検診や自己チェックの方法について理解を深める。それをもとに自分自身の生活を振り返りがんを予防する生活習慣を獲得できるような動機付けとする。さらに治療選択における患者と医師・看護師との関わり、がん薬物療法・放射線療法・手術療法を受ける患者の症状マネジメント、患者の身体・心理的变化を知り、がん治療におけるセルフマネジメントのあり方を考える。さらに終末期における医療を受ける場、緩和ケア・ホスピスケアについての知識を深め、がん医療・ケアについて考える。

■ 授業の形式（授業方法）

講義・一部演習形式

■ 授業スケジュール

No.	内容
第1回	がんの疫学、がん医療をめぐる国・県の政策について学ぶ 10/3 近藤由香
第2回	がん発症メカニズムについて学ぶ 10/10 小澤厚志
第3回	がんの診断、検査について学ぶ 10/24 小澤厚志
第4回	がん予防のための生活習慣について学ぶ 10/31 近藤由香
第5回	がん治療：がん薬物療法とケアについて学ぶ 11/7 近藤由香
第6回	がん治療：放射線治療とケアについて学ぶ 11/14 近藤由香
第7回	がんに伴うストレスを緩和し免疫を高める方法を学ぶ 11/21 近藤由香
第8回	緩和ケア、ホスピスケアについて学ぶ 11/28 近藤由香
第9回	グループワーク 12/5 近藤由香
第10回	グループワーク 12/12 近藤由香
第11回	プレゼンテーション 12/19 近藤由香
第12回	外科治療をうけた患者の身体・心理的变化について学ぶ

	1/9 京田亜由美
第13回	がん治療の意思決定について考える 1/16 京田亜由美
第14回	終末期にある家族のケアについて学ぶ 1/23 京田亜由美
第15回	まとめ 1/30 近藤由香

■ 授業時間外学修情報

「学修」とは授業と授業時間外の予習・復習などを含む概念です。1単位につき45時間の学修が必要です。学則で定められている1単位の時間数は次のとおりです。

講義・演習 授業15～30時間、授業時間外30～15時間
実験・実習・実技

講義中に課題や参考図書を提示する。復習を行いレポートを作成すること。自己の考えが述べられているレポートを期待します。

■ 成績評価基準（授業評価方法）及び関連するディプロマポリシー

- ・課題レポート（70点）A・B・D
- ・プレゼンテーション（30点）A・B・C

出席日数が3分の2に満たないものは評価を受けることができないので注意すること。

成績の評価は、S（90点～100点）、A（80点～89点）、B（70点～79点）、C（60点～69点）、D（59点以下）の5段階とし、S、A、B及びCを合格とし、Dを不合格とする。問題の難易度により、点数を調整する場合がある。

<評価担当者>

- ・課題レポート：近藤由香
- ・プレゼンテーション：近藤由香

■ 受講条件（履修資格）

特になし

■ メッセージ

積極的な質問を歓迎します。

■ キーワード

がん予防、セルフケア、がん治療、緩和ケア、実務経験、アクティブラーニング

■ この授業の基礎となる科目

特になし

■ 次に履修が望まれる科目

特になし

■ 関連授業科目

特になし

■ 教科書

■ 参考書

■ 教科書・参考書に関する補足情報

なし

■ コース管理システム (Moodle) へのリンク

<https://mdl.media.gunma-u.ac.jp/>

■ 授業言語

教科書・資料：日本語
講義・討論：日本語

2024 年度 前期 教養教育		日英区分 : 日本語
生命保険の仕組みと活用を考える		
■ 時間割コード	■ ナンバリング	■ 科目分野
LB1279	LB-1-IS0041-J	【教養教育】総合科目群
■ 担当教員（ローマ字表記）		
杉山 学 [Sugiyama Manabu], 小久保 厳 [Kokubo, Gen]		
■ 対象学生	■ 対象年次	■ 単位数
		2

■ 授業の目的

社会保障制度の仕組みや自助努力で将来に備えることの重要性を理解し、リスクを回避・抑制する手段の一つである生命保険の仕組み・役割等について学ぶことを通じて、これからの持続可能な社会を営む一員として役に立つ知識・考え方の習得を目指す。

■ 授業の到達目標

社会保障制度の概要やその主な保障内容を理解し、説明することが出来る。
現代生活に潜むリスク、生命保険の意義・役割、基本的な仕組み等を理解し、説明することが出来る。
大学生として、公的保障と私的保障のあるべき姿について、自分なりの考察を加えて整理し、説明することが出来る。

■ ディプロマポリシーとの関連（評価の観点）

- A：諸科学についての基礎的知識と理解 ◎
B：論理的・創造的思考力 ◎
C：コミュニケーション能力 ○
D：社会的倫理観・国際性 ○

■ 授業概要

この授業では、まず私たちを取り巻く経済環境について概観する。
その理解の上に立ち、少子高齢化社会の一層の進展により、表面化している社会保障制度の諸課題を背景に、公的保障と私的保障の多様なあり方や、私的保障（生命保険）の意義、自助努力の必要性や有用性について理解し、考察を深めていく。
また、グループ単位で課題分析・解決策等を議論し、提言としてまとめあげるグループディスカッションも予定している。
全ての講義において、大手生命保険会社の役員・管理職等を歴任し、生命保険事業全般に深く精通した幅広い知識・経験・実績を有する講師陣が担当する。
経験談や最新の情報提供も随所に織り込み、理論と実践の両面から理解を深めていく。

■ 授業の形式（授業方法）

講義と演習（グループディスカッション）。
演習（グループディスカッション）は2回程度、少人数に分かれて与えられたテーマに対する解決策の議論等を行う。

■ 授業スケジュール

- 1：オリエンテーション・総論
 - 2：生活設計とリスク管理
 - 3：生活設計と社会保障
 - 4：公的保障と生保(死亡・医療)
 - 5：公的保障と生保(老後・年金)
 - 6：隣接業界・生保の組織・業務
 - 7：グループディスカッション①
 - 8：生保商品の変遷・動向
 - 9：生保の資産運用
 - 10：生活設計と資産運用
 - 11：生命保険と税金
 - 12：トラブル・災害対応とSDG'sへの取り組み
 - 13：グループディスカッション②
 - 14：グループディスカッション② 発表
 - 15：総括（小テスト）
- ※受講生の理解度や履修人数によっては、内容・順番を見直す場合があります。

■ 授業時間外学修情報

「学修」とは授業と授業時間外の予習・復習などを含む概念です。1単位につき45時間の学修が必要です。

学期で定められている1単位の時間数は次のとおりです。

講義・演習 授業15～30時間、授業時間外30～15時間
実験・実習・実技

授業で使用した資料に基づいて一時間程度の復習を行うことが、内容理解において必要です。復習として小レポートの課題を行い提出する。

■ 成績評価基準（授業評価方法）及び関連するディプロマポリシー

<対面授業の場合>

授業への参加度+（受講回によって実施）小レポート等の内容」70点（A,B,C,D）

「最終試験得点」30点（A,B,D）で評価します。

最終試験は学期末に実施します。下記の観点から評価を行います。

- ・ 社会保障制度の概要の理解
- ・ 生命保険の意義・役割・仕組等の理解

小レポート（A,B,D）、グループディスカッション（B,C）では、課題に対して自分なりにどのように考察し、それを説明できているかを評価します。

<オンライン授業となった場合>

毎回の課題提出を基本に、受講状況を見ながら、総合的に評価することとします。

最終試験は実施しませんが、商品提案ディスカッション、及び、最終提出レポートでは、

課題に対して自分なりにどのように考察し、それを説明できているかを評価します。

■ 受講条件（履修資格）

■ メッセージ

少子高齢化の進展を踏まえた社会保障制度の改革状況について、メディア等を通じて情報収集し、課題認識の向上を図ると、より講義が楽しく理解できるようになると考えます。その上で、生活設計・生命保険について学ぶことは、それぞれの人生について考える大変有益な機会にもなると考えます。

■ キーワード

公的保障と私的保障

公助と自助

生活設計

リスク管理

実務経験

■ この授業の基礎となる科目

■ 次に履修が望まれる科目

■ 関連授業科目

■ 教科書

■ 参考書

■ 教科書・参考書に関する補足情報

毎回の講義時に資料を配布する。

■ コース管理システム（Moodle）へのリンク

<https://mdl.media.gunma-u.ac.jp/course/view.php?id=3467>

■ 授業言語

教科書・資料：日本語

講義・討論：日本語

2024 年度 前期 教養教育		日英区分 : 日本語
Linuxリテラシー入門		
■ ■ 時間割コード	■ ■ ナンバリング	■ ■ 科目分野
LB1280	LB-1-IS0092-J	【教養教育】総合科目群
■ ■ 担当教員（ローマ字表記）		
小川 康一 [Ogawa, Koichi]		
■ ■ 対象学生	■ ■ 対象年次	■ ■ 単位数
		2

■ ■ 授業の目的

本講義は、Linuxの概要について学ぶとともに、オペレーティングシステムの操作基礎について習得するための科目である。講義には、数多くあるUNIXシステムの一つであるLinuxを用いる。今やLinuxは、クラウドコンピューティングをはじめ、社会を支える多くの情報システム、サーバで数多く利用されている。コンピュータシステム、ネットワークシステム、クラウド基盤の構築・運用の実務経験のある教員がそれらの経験をふまえた授業を展開する。

本講義の内容は、LinuC（リナック） レベル1相当に準拠します。（すべてを網羅できるとは限りません）

■ ■ 授業の到達目標

- シェルを用いて Linux 上でファイルを管理(ファイルの移動・消去)できる。
- ファイルのパーミッションを理解し、自分で設定できる。
- ファイルエディタを用いて、テキストファイルを作成できる。
- シェルスクリプトを用いて、単純な一連の動作を自動化できる。

■ ■ ディプロマポリシーとの関連（評価の観点）

- A：諸科学についての基礎的知識と理解 ○
- B：論理的・創造的思考力 ○
- C：コミュニケーション能力 -
- D：社会的倫理観・国際性 -

■ ■ 授業概要

本講義では、コマンドラインを用いたファイル操作や、エディタを用いたテキストファイルの作成方法を学びます。これらの基礎知識をもとに、簡単なシェルスクリプトの作成を行います。

■ ■ 授業の形式（授業方法）

講義は主に座学で行いますが、Linuxを操作するためのノートパソコンを持参していただきます。OSがWindowsやMacであっても学習できるように演習用サーバを使用して講義を行います。講義の中では、必要に応じてご自身のPCに仮想マシン環境を構築し、Linuxをインストールしていただきます。

■ ■ 授業スケジュール

※講義の進捗状況により一部内容が変更となる場合があります。

- 第01回 ガイダンス / Linuxとは
- 第02回 実習環境整備（演習サーバへの接続・簡単なコマンド実行）
- 第03回 基本コマンド1
- 第04回 ここまでのまとめ・OSインストール
- 第05回 OSインストール・関連情報・正規表現とパイプ
- 第06回 基本コマンド2
- 第07回 エディタ
- 第08回 ネットワーク
- 第09回 プロセス管理
- 第10回 ファイル管理
- 第11回 シェルスクリプト
- 第12回 シェルスクリプトの発展（シェルスクリプト・ファイル表示ほか）
- 第13回 シェルスクリプトの発展（シェルスクリプト・条件分岐ほか）
- 第14回 シェルスクリプトの発展（シェルスクリプト・端末からの読み込みほか）
- 第15回 まとめ

■ ■ 授業時間外学修情報

「学修」とは授業と授業時間外の予習・復習などを含む概念です。1単位につき45時間の学修が必要です。

学期で定められている1単位の時間数は次のとおりです。

講義・演習 授業15～30時間、授業時間外30～15時間

実験・実習・実技

実際に操作してどのような動きをするのか確認すること。

■ ■ 成績評価基準（授業評価方法）及び関連するディプロマポリシー

提出課題（計3回） （30点） A, B

小テスト（必須、計3回） （50点） A, B

教員評価 （20点） A, B

※状況によりレポート等を課す場合があります。

■ ■ 受講条件（履修資格）

授業にノートパソコンを持参してください。

OSはWindowsもしくはMac OSを推奨しますが、Linuxでも問題ありません。

（※利用する演習サーバの仕様上、受講人数制限があります）

メッセージ

近年、クラウドコンピューティングの利用が増えていますが、今もサーバのOSとしてLinuxが盛んに利用されています。シェルの操作は運用管理に必須の知識です。ぜひ手を動かしてOSの動作を学んでください。

キーワード

UNIX、Linux、Shell、シェルスクリプト、実務経験

この授業の基礎となる科目

情報

次に履修が望まれる科目

Webアプリケーション開発入門

関連授業科目

教科書

教科書1	ISBN					
	書名	Linux標準教科書 (Ver.3.0.4)				
	著者名	宮原徹 (著), 川井義治 (著), 岡田賢治 (著), 佐久間伸夫 (著), 遠山洋平 (著), 田口貴久 (著)	出版社	LPI-Japan	出版年	2022
	備考	https://linuc.org/textbooks/linux/				

参考書

参考書1	ISBN	9784797369847				
	書名	新Linux/UNIX入門				
	著者名	林晴比古著	出版社	ソフトバンククリエイティブ	出版年	2012
	備考					

参考書2	ISBN	4797380942				
	書名	新しいLinuxの教科書				
	著者名	三宅英明, 大角祐介著	出版社	SBクリエイティブ	出版年	2015
	備考					

参考書3	ISBN	9784798166162				
	書名	LinuCLレベル1 : Version10.0対応				
	著者名	中島能和著	出版社	翔泳社	出版年	2020
	備考					

参考書4	ISBN	9784798166155				
	書名	LinuC (リナック) レベル1スピードマスター問題集 : Version10.0対応				
	著者名	山本道子, 大竹龍史著	出版社	翔泳社	出版年	2020
	備考					

教科書・参考書に関する補足情報

教科書は講義内で指示しますが、各自ダウンロードをお願いします。
参考書の購入は必須ではありません。中央図書館にありますので必要に応じて参照してください。

コース管理システム (Moodle) へのリンク

<https://mdl.media.gunma-u.ac.jp/course/view.php?id=3468>

授業言語

資料 : 「日本語」
講義 : 「日本語」

2024 年度 後期 教養教育		日英区分:日本語
広報・PR入門		
■ ■ 時間割コード	■ ■ ナンバリング	■ ■ 科目分野
LB2295	LB-1-IS0090-J	【教養教育】総合科目群
■ ■ 担当教員（ローマ字表記）		
板橋 英之 [Itabashi Hideyuki], 宮本 俊一 [Miyamoto, Shunichi]		
■ ■ 対象学生	■ ■ 対象年次	■ ■ 単位数
		2

■ ■ 授業の目的

本講義では、広報・PRの基礎を理解するとともに、マスメディア向けの情報発信の方法や実践的な模擬取材などを体験し、高度情報社会において自らで主体的に課題を探索する能力を修得することを目的とする。

■ ■ 授業の到達目標

広報・PRの基礎を理解し、メディアが多様化した現代社会において、自らで課題を探索する力を養うとともに、企画力、取材力、ライティング力を身に付けることができる。

■ ■ ディプロマポリシーとの関連（評価の観点）

A：諸科学についての基礎的知識と理解 △
B：論理的・創造的思考力 ◎
C：コミュニケーション能力 ◎
D：社会的倫理観・国際性 ○
（◎：特に重視する ○：重視する △：評価対象 -：評価対象としない）

■ ■ 授業概要

高度情報社会においては、自らで情報を整理しながら、課題を探索できることが重要である。広報・PRの基本的な概念を理解し、広報の観点から発信すべき情報を見極めたい。グループワークで群馬大学を広報するためのリーフレットを企画・提案し、プレゼンテーション力、取材力、ライティング力などを身に付けていく。全ての講義を新聞記者、企業広報の実務経験のある教員（宮本）が行う。

■ ■ 授業の形式（授業方法）

基本的にはじめに講義を行い、その後グループワークを行う。グループワークでは、対話・討論、プレゼンテーション、模擬取材などを行う。

■ ■ 授業スケジュール

第1回 群馬大学における広報の取り組み
・オリエンテーション
第2回 広報のあり方（1）
・メディアと広報
第3回 広報のあり方（2）
・プレスリリース演習
第4回 リーフレットの企画（1）
第5回 リーフレットの企画（2）
第6回 リーフレットの企画（3）
第7回 リーフレットの企画（4）
第8回 リーフレットの企画（5）
第9回 ゲスト講師講演＜担当：全国紙新聞記者（予定）＞
第10回 企画をプレゼン（1）
第11回 企画をプレゼン（2）
第12回 特別講演＜担当：板橋副学長＞
第13回 取材の進め方と原稿の書き方（1）
第14回 取材の進め方と原稿の書き方（2）
第15回 取材の進め方と原稿の書き方（3）

※受講生の理解度や履修人数によっては、内容・順番を見直す場合があります。

■ ■ 授業時間外学修情報

「学修」とは授業と授業時間外の予習・復習などを含む概念です。1単位につき45時間の学修が必要です。

学則で定められている1単位の時間数は次のとおりです。

講義・演習 授業15～30時間、授業時間外30～15時間

実験・実習・実技

・グループ内で議論し、プレゼンや企画書提出など課題に向けた準備をする。

■ ■ 成績評価基準（授業評価方法）及び関連するディプロマポリシー

企画書作成、原稿執筆（50%） A・B・D

プレゼンテーション（30%） B・C

最終レポート（20%） A・B

■ ■ 受講条件（履修資格）

■ ■ メッセージ

本講義では、広報・PRの基礎を学ながら、企画、インタビュー、取材、編集等を体験し、高度情報社会において、情報の取捨選択や新たな課題発見ができるようになることを目指します。実社会での課題解決につながる実践力を身に付けてください。

■ ■ キーワード

アクティブラーニング、実務経験、広報、マスメディア、記者

■ ■ この授業の基礎となる科目

■ ■ 次に履修が望まれる科目

■ ■ 関連授業科目

■ ■ 教科書

■ ■ 参考書

■ ■ 教科書・参考書に関する補足情報

■ ■ コース管理システム (Moodle) へのリンク

<https://mdl.media.gunma-u.ac.jp/course/view.php?id=1876>

■ ■ 授業言語

日本語

2024 年度 前期 医学部 医学科		日英区分:日本語
行動科学		
■ 時間割コード	■ ナンバリング	■ 科目分野
MB2002	MB-2-HS2002-J	
■ 担当教員 (ローマ字表記)		
細井 延武 [Hosoi Nobutake]		
■ 対象学生	■ 対象年次	■ 単位数
	2年次 ~ 2年次	1

■ 授業の目的

行動科学とは、動物や人を含めた生物の行動を科学的に研究する学問であるが、ある「行動」が生じる際には、「脳」を含めた神経系の活動と、その脳活動と密接な関係がある複雑な「心理（こころ）」がそれぞれ背景にある。したがって、行動科学は、「心理」を研究することにもつながり、「脳」を理解することにもつながる。行動科学の基礎を学ぶことにより、人の行動やその背景にある「心理」や「脳」の働きを科学的に理解し、医学・医療に応用しうる素地をつくることを目的とする。

■ 授業の到達目標

人の行動と心理を理解するための基礎的な知識と考え方を学び、「行動」を科学的に考えることができる。（医C5）

■ ディプロマポリシーとの関連（評価の観点）

- A: 諸科学についての基礎的知識と理解◎
- B: 論理的・創造的思考力△
- C: コミュニケーション能力（医C）
- D: 社会的倫理観・国際性
- E: 自己省察力（医A）○
- F: 知識の獲得と知識を応用する力（医B）◎
- G: チーム医療の中で協働する力（医D）
- H: 基本的な総合診療能力（医E）
- I: 地域医療の向上に貢献する能力（医F）
- J: 医学研究を遂行する能力（医G）
- K: 自己研鑽（医H）

■ 授業概要

各教員がそれぞれの項目について、コアカリキュラムを参考に、できるだけ視覚的に体験できるデモや動画視聴などの手段を用いて、学生に可能な限り体験してもらいながら、解説します。また、後半の部分で、実際に精神科の臨床の現場に立たれている実務経験のある神経精神医学教室の先生方に、臨床医学への導入や橋渡しとなるような講義をして頂く予定です。

■ 授業の形式（授業方法）

基礎分野と臨床分野双方の教員が担当し、対面での講義形式で授業を行います。講義資料はGuLMS(moodle)上からダウンロードして下さい。講義に関する連絡などは、GuLMS(moodle)を通して行うので、講義時間の前にmoodleでの「行動科学」の講義情報を必ずチェックするようにして下さい。

■ 授業スケジュール

前期 金曜日 10:30-12:00 90分

- 第1回 行動科学・心理学序論 (細井延武) 2024/4/12 (金)
- 第2回 生得的行動 (細井延武) 2024/4/19 (金)
- 第3回 記憶 (配島 旭) 2024/4/26 (金)
- 第4回 習得的行動 (学習)① (細井延武) 2024/5/10 (金)
- 第5回 習得的行動 (学習)② (細井延武) 2024/5/17 (金)
- 第6回 知覚 (細井延武) 2024/5/24 (金)

・中間テスト (第1回 行動科学・心理学序論から第6回 知覚 までの範囲)
(筆記試験) 2023/5/31 (金)

- 第7回 動機づけ・欲求・ストレス (配島 旭) 2024/6/7 (金)
- 第8回 脳と行動 (細井延武) 2024/6/14 (金)
- 第9回 社会心理学の基礎 (細井延武) 2024/6/21 (金)
- 第10回 脳科学の基本 (神経精神医学教室 武井雄一) 2024/6/28 (金)
- 第11回 社会と健康 (神経精神医学教室 武井雄一) 2024/7/5 (金)
- 第12回 心身相関 (神経精神医学教室 須田真史) 2024/7/12 (金)
- 第13回 パーソナリティ・個人差・知能 (配島 旭) 2024/7/19 (金)

・期末テスト (第7回 動機づけ・欲求・ストレス 以降の範囲)
(筆記試験) 2024/7/30 (火)

■ 授業時間外学修情報

「学修」とは授業と授業時間外の予習・復習などを含む概念です。1単位につき45時間の学修が必要です。

学期で定められている1単位の時間数は次のとおりです。

講義・演習 授業15~30時間、授業時間外30~15時間

実験・実習・実技

座学の講義が中心となるが、参考となるweb上のサイトや動画教材なども紹介する予定です。行動科学は扱う範囲が非常に広いので、各自、講義ごとに復習をしっかりと行うとともに、講義で紹介した本やwebサイトなどを積極的に活用して学習に役立ててほしい。

■ 成績評価基準（授業評価方法）及び関連するディプロマポリシー

- ① ミニテスト、講義感想提出、授業への参加度：到達目標 A, B, E 10%
- ② 筆記試験:到達目標 A, B, F 90%

■ 受講条件（履修資格）

医学科2年生、その他

■ メッセージ

動物や人の行動・心理を科学的に学ぶ最初の機会になると思います。行動や心理は、私たちの脳などの神経系の活動と非常に関係が深いのですが、行動や心理は日常的でとっつきやすい反面、つい、根拠のない思い込みや安易な擬人化、単なる逸話的な解釈などをしてしまいがちでもあるので、科学的にとらえることは想像以上に難しくもあります。人や動物の行動を考えるときに、脳活動との関連やその行動の背景にある「心理」を視野に入れながら、科学的に「行動」を考えることの重要性を学んでほしいと思います。

■ キーワード

行動科学、心理学、神経科学、精神医学、ライフコースアプローチ、実務経験、準メディア授業、アクティブラーニング（講義感想の提出）

■ この授業の基礎となる科目

■ 次に履修が望まれる科目

■ 関連授業科目

■ 教科書

教科書1	ISBN	9784890134489				
	書名	マイヤーズ心理学：カラー版				
	著者名	デーヴィッド・マイヤーズ著；村上郁也訳	出版社	西村書店東京出版編集部	出版年	2015
	備考					
教科書2	ISBN	978-4-130121170				
	書名	心理学 第5版補訂版				
	著者名	鹿取廣人 [ほか] 編	出版社	東京大学出版会	出版年	2020
	備考					

■ 参考書

■ 教科書・参考書に関する補足情報

■ コース管理システム (Moodle) へのリンク

<https://mdl.media.gunma-u.ac.jp/course/view.php?id=4488>

■ 授業言語

教科書・資料：日本語
講義・討論：日本語

2024年度 後期 医学部 医学科		日英区分:日本語
耳鼻咽喉・口腔顎顔面		
■ 時間割コード	■ ナンバリング	■ 科目分野
MB3020	MB-3-CA3020-J	
■ 担当教員 (ローマ字表記)		
近松 一朗 [Chikamatsu Kazuaki], 横尾 聡 [Yokoh Satoshi]		
■ 対象学生	■ 対象年次	■ 単位数
	3年次 ~ 3年次	1

■ 授業の目的

耳鼻咽喉科・頭頸部外科学、口腔顎顔面外科学に関して、基礎医学の知識を基に病態生理を学び、それらが相互に関連していることを理解し、応用することを通じて、疾患の診断や治療法までを総合的に理解することを目的とする。

■ 授業の到達目標

- 基礎医学の知識を病因・病態の理解に活用できる。(医B2)
- 臨床医学の知識を有し、基礎医学の知識と関連付けて説明できる。(医B3)
- 様々な領域の知を横断的に関連づけ、総合することができる。(医B5)
- 診療を行うために必要な基本的な知識を身につける。(医E5)
- 臨床推論により、疾患を診断する手順を身につける。(医E6)
- 頻度の高い疾患について適切な治療計画を立案できる。(医E7)
- Evidence-based medicine (EBM)を活用することができる。(医E11)
- 知識や技術の修練に積極的に取り組むことができる。(医H2)
- 課題を解決するための方法を考え、段階的に取り組むことができる。(医H3)

■ ディプロマポリシーとの関連 (評価の観点)

- A: 諸科学についての基礎的知識と理解◎
B: 論理的・創造的思考力○
C: コミュニケーション能力 (医C) -
D: 社会的倫理観・国際性-
E: 自己省察力 (医A) -
F: 知識の獲得と知識を応用する力 (医B) ◎
G: チーム医療の中で協働する力 (医D) -
H: 基本的な総合診療能力 (医E) ◎
I: 地域医療の向上に貢献する能力 (医F) -
J: 医学研究を遂行する能力 (医G) -
K: 自己研鑽 (医H) ○

■ 授業概要

耳鼻咽喉科・頭頸部外科学、口腔顎顔面外科学の実務経験を有する担当教員が、その実務経験を活かして系統的に講義を行なう。

■ 授業の形式 (授業方法)

オムニバス形式による講義による授業である。各疾患の症例提示も適宜行われる。

■ 授業スケジュール

2024年12月3日-2025年1月28日

毎週火曜日 1-3限目

① 歯科疾患と口腔感染症: 小川将

② 顎骨嚢胞: 小川将

③ 口腔癌 (1): 横尾聡

④ 口腔癌 (2): 横尾聡

⑤ 口腔癌 (3): 横尾聡

⑥ 顎関節症: 栗原淳

⑦ 顎口腔外傷: 栗原淳

⑧ 顎変形症: 横尾聡

⑨ 聴・平衡覚解剖生理: 桑原幹夫

⑩ 聴・平衡覚検査法: 多田紘恵

⑪ 内耳疾患・神経疾患: 多田紘恵

⑫ めまい疾患: 桑原幹夫

⑬ 外耳・中耳疾患I: 茂木雅臣

⑭ 外耳・中耳疾患II: 茂木雅臣

⑮ 人工内耳・補聴器・小児難聴: 茂木雅臣

⑯ 鼻・副鼻腔解剖生理: 松山敏之

⑰ 副鼻腔疾患: 松山敏之

⑱ 頭頸部腫瘍I: 近松一朗

⑲ 頭頸部腫瘍II: 近松一朗

⑳ 口腔・咽喉頭疾患: 二宮洋

㉑ 耳鼻咽喉科救急疾患: 二宮洋

なお、講義の順序が変更になる場合は事前にLMSにて連絡する。

2025年2月4日火曜日 1限目 (AM8:40-AM9:40) 耳鼻咽喉・口腔顎顔面学試験

■ 授業時間外学修情報

「学修」とは授業と授業時間外の予習・復習などを含む概念です。1単位につき45時間の学修が必要です。

学則で定められている1単位の時間数は次のとおりです。

講義・演習 授業15～30時間、授業時間外30～15時間
実験・実習・実技

各講義で事前に配布される資料を観て予習・復習し、理解をより深めること。

■ 成績評価基準（授業評価方法）及び関連するディプロマポリシー

全講義終了後に試験を行い、成績を評価する。配点比率 100% (A・B・F・H・K)
なお、口腔顎顔面学の講義では授業の理解度をミニテストにて確認する

■ 受講条件（履修資格）

医学科3年生

■ メッセージ

主体的に受講すること

■ キーワード

耳鼻咽喉科学、頭頸部外科学、口腔外科学、顎顔面外科学、実務経験

■ この授業の基礎となる科目

解剖学、生理学、生化学、薬理学、病理学、免疫学

■ 次に履修が望まれる科目

■ 関連授業科目

■ 教科書

■ 参考書

■ 教科書・参考書に関する補足情報

■ コース管理システム (Moodle) へのリンク

<https://mdl.media.gunma-u.ac.jp/course/view.php?id=4524>

■ 授業言語

教科書・資料：日本語

講義・討論：日本語

2024 年度 後期 医学部 医学科		日英区分 : 日本語
臨床薬理学総論		
■ ■ 時間割コード	■ ■ ナンバリング	■ ■ 科目分野
MB3024	MB-3-CA3024-J	
■ ■ 担当教員 (ローマ字表記)		
山本 康次郎 [Yamamoto Kohjiroh], 八島 秀明 [Yashima, Hideaki]		
■ ■ 対象学生	■ ■ 対象年次	■ ■ 単位数
	3年次 ~ 3年次	1

■ ■ 授業の目的

これまで身につけてきた基礎医学・臨床医学の各分野における知識を互いに関連付けて応用することにより、基本的な総合診療能力である薬物治療の設計・実践に必要な知識・技術を身につける。また、医薬品の適正使用を題材として、最善の医療を実践するために、生涯にわたり自己研鑽を行う意欲を持ち続けることの重要性を学ぶ。

■ ■ 授業の到達目標

1. 医薬品の開発から承認に至るまでの過程を学び、さまざまな分野でキャリアを継続し、社会に貢献する意思を持つ (医H4)
2. 医薬品情報を科学的に吟味し、Evidence-based medicine (EBM) を活用することができる (医E11)
3. 生体機能蛋白の機能に基づく薬効の個人差を、基礎医学の知識と関連付けて説明できる (医B3)
4. 特殊な母集団における薬物投与設計を、基礎医学の知識と関連付けて説明できる (医B3)
5. 薬物間相互作用が生じる機構を、基礎医学の知識と関連付けて説明できる (医B3)
6. 薬効の個人差に関与する様々な領域の知を横断的に関連付け、総合することができる (医B5)
7. 薬害が生じた背景を題材として、人間と社会にかかわる知を広く学ぶ姿勢をもつ (医B4)
8. 薬物動態の理論を応用し、頻度の高い疾患について適切な治療計画を立案できる (医E7)
9. 処方箋の作成および医薬品の適切な取り扱いのために必要な知識を身につける (医E5)

■ ■ ディプロマポリシーとの関連 (評価の観点)

- A: 諸科学についての基礎的知識と理解○
B: 論理的・創造的思考力
C: コミュニケーション能力 (医C)
D: 社会的倫理観・国際性○
E: 自己省察力 (医A)
F: 知識の獲得と知識を応用する力 (医B) △
G: チーム医療の中で協働する力 (医D) ○
H: 基本的な総合診療能力 (医E) ○
I: 地域医療の向上に貢献する能力 (医F)
J: 医学研究を遂行する能力 (医G)
K: 自己研鑽 (医H) ○

■ ■ 授業概要

医薬品を薬物治療に用いる際に、薬物の薬理学的作用に加えて考慮すべきこととその技術を学びます。授業中に提示した課題を提出してもらいます。授業中にミニテストを実施することがあります。薬剤師の実務経験を持つ教員が、その実務経験を活かして、医薬品や薬物治療に関する授業を行います。

■ ■ 授業の形式 (授業方法)

提出課題に基づいた事前学習・復習が行われていることを前提に講義および演習を行います。

■ ■ 授業スケジュール

- | | | | |
|------|--------|----|----------------------------------|
| 第1回 | 12月5日 | 2限 | 医薬品に関わる規制 (山本康次郎) |
| 第2回 | 12月5日 | 3限 | 医薬品の開発と臨床試験・EBM (山本康次郎) |
| | 12月12日 | | 予備日 |
| 第3回 | 12月19日 | 2限 | 医薬品の剤型と薬物動態 (山本康次郎) |
| 第4回 | 12月19日 | 3限 | 薬物有害反応・薬物アレルギー・薬物依存 (山本康次郎) |
| 第5回 | 12月26日 | 2限 | 薬効の個人差の原因となる生体機能蛋白 (荒木拓也) |
| 第6回 | 12月26日 | 3限 | 薬物間相互作用 (八島秀明) |
| 第7回 | 1月9日 | 2限 | 小児・妊婦・臓器障害患者に対する薬物投与設計 (山本康次郎) |
| 第8回 | 1月9日 | 3限 | 小児・妊婦・臓器障害患者に対する薬物投与設計・演習 (八島秀明) |
| 第9回 | 1月16日 | 2限 | TDM・処方設計 (荒木拓也) |
| 第10回 | 1月16日 | 3限 | TDM・処方設計・演習 (荒木拓也) |
| 第11回 | 1月23日 | 1限 | 処方箋の書き方 (荒木拓也) |
| 第12回 | 1月23日 | 2限 | 医薬品が関連する事故とその対策・処方箋作成 (荒木拓也) |
| 第13回 | 1月23日 | 3限 | 医薬品が関連する事故とその対策・処方箋作成演習 (荒木拓也) |
| 第14回 | 1月30日 | 2限 | 医薬品情報・薬害 (山本康次郎) |
| 第15回 | 1月30日 | 3限 | 薬害被害者の声を聞く (増山ゆかり) |
| | 2月6日 | | 試験 |

■ ■ 授業時間外学修情報

「学修」とは授業と授業時間外の予習・復習などを含む概念です。1単位につき45時間の学修が必要です。学期で定められている1単位の時間数は次のとおりです。

講義・演習 授業15~30時間、授業時間外30~15時間
実験・実習・実技

生化学・生理学・薬理学の理解が十分であることを前提としているので、必要に応じて復習する。課題に基づいて自主学習が授業時間外に行われることを前提としている。

■ 成績評価基準（授業評価方法）及び関連するディプロマポリシー

到達目標に関連した筆記試験（80%）（A,D,F,G,H）
提出課題と演習の成績（20%）（H,K）

■ 受講条件（履修資格）

3年次前期までのすべての科目を履修し、3年後期「薬理学」の学習も終了していること。

■ メッセージ

基礎科学を臨床医学に応用する際の基礎となる内容を含むので、基礎科学を十分に理解した上で臨んでほしい。
「医薬品」は、薬物を製剤化した「商品」でもあるので、社会科学的側面からの理解も深めていただきたい。

■ キーワード

医薬品、副作用、薬物動態、EBM、処方、実務経験

■ この授業の基礎となる科目

薬理学、生理学、生化学、解剖学

■ 次に履修が望まれる科目

臨床医学1～4、医療安全学

■ 関連授業科目

発達と老化、細菌学

■ 教科書

■ 参考書

■ 教科書・参考書に関する補足情報

■ コース管理システム（Moodle）へのリンク

<https://mdl.media.gunma-u.ac.jp/course/view.php?id=4528>

■ 授業言語

教科書・資料：日本語
講義・討論：日本語

2024 年度 前期 医学部 医学科		日英区分 : 日本語
放射線腫瘍学・腫瘍内科学		
■ ■ 時間割コード	■ ■ ナンバリング	■ ■ 科目分野
MB4008	MB-3-CB4008-J	
■ ■ 担当教員 (ローマ字表記)		
大野 達也 [Ohno Tatsuya], 櫻井 麗子 [Reiko Sakurai], 山田 真紀子 [Yamada Makiko], 河村 英将 [Kawamura Hidemasa], 岡本 雅彦 [Okamoto Masahiko], 岡野 奈緒子 [Okano Naoko], 久保 巨輝 [Kubo, Nobuteru], 安藤 謙 [Andoh Ken], 塚本 憲史 [Tsukamoto Norifumi]		
■ ■ 対象学生	■ ■ 対象年次	■ ■ 単位数
	4年次 ~ 4年次	1

■ ■ 授業の目的

国民の2人に1人はがんに罹患し、手術療法、放射線治療、薬物療法などを受けている。この授業では、国のがん対策や、がん医療における放射線腫瘍学や腫瘍内科学に関する知識を身につけ、応用する力を高めることを目標とする。

■ ■ 授業の到達目標

1. 医学の基礎となる自然科学の幅広い知識を有する。(医B1)
2. 基礎医学の知識を病因・病態の理解に活用できる。(医B2)
3. 臨床医学の知識を有し、基礎医学の知識と関連付けて説明できる。(医B3)
4. 様々な領域の知を横断的に関連づけ、総合することができる。(医B5)

■ ■ ディプロマポリシーとの関連 (評価の観点)

- A : 諸科学についての基礎的知識と理解○
B : 論理的・創造的思考力○
C : コミュニケーション能力 (医C)
D : 社会的倫理観・国際性○
E : 自己省察力 (医A)
F : 知識の獲得と知識を応用する力 (医B) ○
G : チーム医療の中で協働する力 (医D)
H : 基本的な総合診療能力 (医E)
I : 地域医療の向上に貢献する能力 (医F)
J : 医学研究を遂行する能力 (医G)
K : 自己研鑽 (医H)

■ ■ 授業概要

各種悪性腫瘍に対する放射線治療や薬物療法の適応、治療法、治療効果について講義する。
教員は、がん診療の実務経験をもとに講義を行う。

毎回ミニテストを実施する。

■ ■ 授業の形式 (授業方法)

講義形式で行う。小人数のグループ討議を行うことがある。

■ ■ 授業スケジュール

- 第1回 6月7日 1時限 塚本憲史 国のがん対策、がんの診断
第2回 6月7日 2時限 塚本憲史 がんの生物学 (1)
第3回 6月7日 3時限 塚本憲史 がんの生物学 (2)
第4回 6月14日 1時限 高張大亮 抗がん薬総論 (1)
第5回 6月14日 2時限 高張大亮 抗がん薬総論 (2)
第6回 6月14日 3時限 櫻井麗子 支持療法
第7回 6月21日 1時限 山田真紀子 緩和ケア
第8回 6月21日 2時限 高張大亮 臨床試験、臨床評価、その他
第9回 6月21日 3時限 高張大亮 Oncology Emergency、Onco-Cardiology、その他
第10回 6月28日 1時限 大野達也 臨床放射線腫瘍学総論
第11回 6月28日 2時限 大野達也・熊澤琢也 緩和的放射線治療
第12回 6月28日 3時限 大野達也・大西真弘 放射線治療効果の評価、効果判定
第13回 7月5日 1時限 大野達也・入江大介 脳・中枢神経系腫瘍の放射線治療
第14回 7月5日 2時限 大野達也・武者篤 頭頸部腫瘍の放射線治療
第15回 7月5日 3時限 久保巨輝 呼吸器腫瘍の放射線治療
第16回 7月12日 1時限 大野達也・宮坂勇平 乳腺腫瘍の放射線治療
第17回 7月12日 2時限 大野達也・小林大二郎 消化器腫瘍の放射線治療
第18回 7月12日 3時限 安藤謙 婦人科腫瘍の放射線治療
第19回 7月19日 1時限 河村英将 泌尿器腫瘍の放射線治療
第20回 7月19日 2時限 大野達也・大高建 小児・血液腫瘍・リンパ系腫瘍の放射線治療
第20回 7月19日 3時限 岡本雅彦 皮膚・骨軟部腫瘍の放射線治療
第22回 7月26日 10:00-11:30 試験

■ ■ 授業時間外学修情報

「学修」とは授業と授業時間外の予習・復習などを含む概念です。1単位につき45時間の学修が必要です。
学則で定められている1単位の時間数は次のとおりです。

講義・演習 授業15~30時間、授業時間外30~15時間

実験・実習・実技

事前に「やさしくわかる放射線治療学」の該当箇所や講義レジュメに目を通しておいてください。
授業後は配布プリントとノートを読み返し、図表の内容や重要なポイントを理解すること。

成績評価基準（授業評価方法）及び関連するディプロマポリシー

放射線腫瘍学，腫瘍内科学の問題を各50点満点で出題する。
試験はそれぞれの分野毎に採点し、いずれもが6割以上で合格とする。再試験は6割未満の分野に対して行う。

放射線腫瘍学分野 配点：①筆記試験 90% ②ミニテスト 10%：到達目標1, 2, 3, 4 (A・B・D・F)
腫瘍内科学分野 配点：①筆記試験 90% ②ミニテスト 10%：到達目標1, 2, 3, 4 (A・B・D・F)

受講条件（履修資格）

医学科4年生

メッセージ

放射線腫瘍学については、古典的な治療法から最先端の高精度放射線治療，ならびに重粒子線治療まで網羅する講義である。事前に「やさしくわかる放射線治療学」の該当箇所や講義レジュメに目を通しておいてください。授業では事前の予習を前提に、小グループで症例検討を行うことがあります。

腫瘍内科学は、国のがん対策、がんの分子機構、細胞障害性抗がん薬、分子標的薬、免疫療法、支持療法、緩和ケアなど、がん薬物療法に必要な知識を網羅する講義である。

キーワード

放射線腫瘍学、腫瘍内科学、集学的治療、抗がん薬治療、アクティブラーニング、実務経験

この授業の基礎となる科目

放射線基礎医学

次に履修が望まれる科目

関連授業科目

教科書

教科書1	ISBN	4055200528				
	書名	やさしくわかる放射線治療学 改定第2版				
	著者名	日本放射線腫瘍学会 監修,日本放射線腫瘍学会,	出版社	学研メディカル秀潤社	出版年	2024
	備考	医学生や研修医向け				
教科書2	ISBN	4524227393				
	書名	新臨床腫瘍学 改訂第6版				
	著者名	日本臨床腫瘍学会	出版社	南江堂	出版年	2021
	備考					
教科書3	ISBN	9784524225422				
	書名	入門腫瘍内科学				
	著者名	日本臨床腫瘍学会	出版社	南江堂	出版年	2020
	備考					

参考書

参考書1	ISBN	978430707116				
	書名	放射線治療計画ガイドライン = JASTRO Guidelines 2020 for Radiotherapy Treatment Planning				
	著者名	日本放射線腫瘍学会 編,日本放射線腫瘍学会,	出版社	金原出版	出版年	2020
	備考	内容は放射線治療専門医向けである				
参考書2	ISBN	4055200498				
	書名	がん・放射線療法				
	著者名	大西洋 [ほか] 編集	出版社	Gakken	出版年	2023
	備考	最も内容は詳しいが、その分量が多い				
参考書3	ISBN	4307071174				
	書名	放射線治療 基礎知識図解ノート 第2版				
	著者名	榮 武二、櫻井 英幸、磯辺 智範、佐藤 英介	出版社	金原出版	出版年	2021
	備考	豊富な図解と写真が特徴				

■ ■ 教科書・参考書に関する補足情報

■ ■ コース管理システム (Moodle) へのリンク

<https://mdl.media.gunma-u.ac.jp/course/view.php?id=4537>

■ ■ 授業言語

教科書・資料 : 「日本語」

講義・討論 : 「日本語」

2024 年度 前期 医学部 医学科		日英区分：日本語	
脳・神経学			
■ 時間割コード	■ ナンバリング	■ 科目分野	
MB4009	MB-3-CC4009-J		
■ 担当教員（ローマ字表記）			
池田 佳生 [Ikeda Yoshio]			
■ 対象学生	■ 対象年次	■ 単位数	
	4年次～4年次	1	

■ 授業の目的

脳神経内科学および脳神経外科学に関して、基礎医学の知識を病因・病態の理解に活用し、各疾患の病態生理、診断法や治療法について総合的に理解することを目指す。

■ 授業の到達目標

- 基礎医学の知識を病因・病態の理解に活用できる。(医B2)
- 臨床医学の知識を有し、基礎医学の知識と関連付けて説明できる。(医B3)
- 様々な領域の知を横断的に関連づけ、総合することができる。(医B5)
- 診療を行うために必要な基本的な知識を身につける。(医E5)
- 臨床推論により、疾患を診断する手順を身につける。(医E6)
- 治療計画を立案する手順を身につける。(医E7)
- Evidence-based medicine (EBM)を用いて症例を考察することができる。(医E11)
- 知識や技術の修練に積極的に取り組むことができる。(医H2)
- 課題を解決するための方法を考え、段階的に取り組むことができる。(医H3)

■ ディプロマポリシーとの関連（評価の観点）

- A: 諸科学についての基礎的知識と理解◎
B: 論理的・創造的思考力○
C: コミュニケーション能力 (医C) -
D: 社会的倫理観・国際性○
E: 自己省察力 (医A) -
F: 知識の獲得と知識を応用する力 (医B) ◎
G: チーム医療の中で協働する力 (医D) -
H: 基本的な総合診療能力 (医E) ◎
I: 地域医療の向上に貢献する能力 (医F) ○
J: 医学研究を遂行する能力 (医G) -
K: 自己研鑽 (医H) ○

■ 授業概要

脳神経内科学および脳神経外科学の診療を担当する各科の教官により、オムニバス形式で運営される。

■ 授業の形式（授業方法）

対面式の講義を行う予定である。講義に用いる資料はLMSを通じて事前配布される。

■ 授業スケジュール

- 4月9日 (火) 4限 13:00～14:00 神経内科学総論および神経診察のポイント1 池田佳生
4月9日 (火) 5限 14:10～15:10 神経診察のポイント2および補助診断法 池田佳生
4月9日 (火) 6限 15:20～16:20 ニューロパチー 池田佳生
4月16日 (火) 4限 13:00～14:00 運動ニューロン疾患・脊髄小脳変性症・多系統萎縮症 池田佳生
4月16日 (火) 5限 14:10～15:10 錐体外路系疾患 笠原浩生
4月16日 (火) 6限 15:20～16:20 ミオパチー 藤田行雄
4月23日 (火) 4限 13:00～14:00 脳外科総論 大宅宗一
4月23日 (火) 5限 14:10～15:10 中枢神経系感染症、代謝性疾患 藤田行雄
4月23日 (火) 6限 15:20～16:20 脳腫瘍: 悪性腫瘍 堀口桂志
4月30日 (火) 4限 13:00～14:00 脳腫瘍: 良性腫瘍 大宅宗一
4月30日 (火) 5限 14:10～15:10 脳神経内科的脳血管障害、救急疾患 甘利雅邦
4月30日 (火) 6限 15:20～16:20 脳血管障害、出血性 藍原正憲
5月7日 (火) 4限 13:00～14:00 頭部外傷 藍原正憲
5月7日 (火) 5限 14:10～15:10 発作性疾患、頭痛 藤田行雄
5月7日 (火) 6限 15:20～16:20 脳血管障害、虚血性 清水立矢
5月14日 (火) 4限 13:00～14:00 小児奇形および水頭症 堀口桂志
5月14日 (火) 5限 14:10～15:10 機能的脳外科、定位放射線外科 宮城島孝昭
5月14日 (火) 6限 15:20～16:20 脱髄性疾患、三工口パチー 櫻井篤志
5月21日 (火) 4限 13:00～14:00 脊椎・脊髄疾患 本多文昭
5月21日 (火) 5限 14:10～15:10 中枢神経感染症・てんかん 宮城島孝昭
5月21日 (火) 6限 15:20～16:20 認知症疾患 笠原浩生
5月28日 (火) 4/5/6限 期末試験 池田佳生

■ 授業時間外学修情報

「学修」とは授業と授業時間外の予習・復習などを含む概念です。1単位につき45時間の学修が必要です。学則で定められている1単位の時間数は次のとおりです。

講義・演習 授業15～30時間、授業時間外30～15時間

実験・実習・実技

各講義で配布される資料を基に、学生各自で授業中に理解を得られなかった事項の確認と復習を行って幅広い知識を身につける。

■ 成績評価基準（授業評価方法）及び関連するディプロマポリシー

評価項目（配点比率%）：対応する授業の到達目標（関連するディプロマポリシー）

①期末試験（100%）：到達目標1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9（A・B・D・F・H・I・K）

成績評価の評語は、A（80-100点） B（70-79点） C（60-69点） D（59点以下）とし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。

■ 受講条件（履修資格）

医学科4年生

■ メッセージ

主体的に学修することを望む。

■ キーワード

脳神経内科、脳神経外科、実務経験

■ この授業の基礎となる科目

生理学、生化学、薬理学、解剖学

■ 次に履修が望まれる科目

■ 関連授業科目

■ 教科書

■ 参考書

■ 教科書・参考書に関する補足情報

■ コース管理システム（Moodle）へのリンク

<https://mdl.media.gunma-u.ac.jp/course/view.php?id=4538>

■ 授業言語

資料：「日本語」

講義・討論：「日本語」